

## 第2回流山市まち・ひと・しごと創生会議議事概要

### 1. 日時

平成27年7月7日（火） 10時から12時まで

### 2. 場所

流山市役所304会議室

### 3. 参加者

浅川 陽子	江戸川大学 教授
池森 政治	流山商工会議所 会頭 <u>欠席</u>
大野 トシ子	流山市民生委員児童委員協議会 会長
小林 暁峯	流山市生涯学習審議会 会長 <u>欠席</u>
田根 洋	流山市小学校校長会 会長
成島 崇	株式会社千葉銀行 流山支店長
布施 高広	千葉県東葛飾地域振興事務所 所長
山田 聡	流山市総合政策部 部長 議長
宮島 芳行	流山市健康福祉部 部長
矢野 和彦	流山市子ども家庭部 部長
福留 克志	流山市産業振興部 部長

(事務局)  
企画政策課

### 4. 資料

- ・資料1 流山市版総合戦略たたき台
- ・資料2 千葉県版「人口ビジョン」「総合戦略」(骨子案)の概要
- ・資料3 「まち・ひと・しごと創生基本方針2015」の全体像

### 5. 議事

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 配布資料説明
- (4) 各委員から

#### 委員

1つ目の「母になるなら流山」という柱について、これまで施設整備、保育所や送迎保育ステーションなどに取り組んできたと思うが、次の段階で「質の向上」を掲げているが、教育の質の向上については具体的にどのような取り組みを考えているか。

#### 議長

小学校の英語教育については、全国的には特区をとって実施しているところ、本市では、現在、小学校3年生から総合学習の時間を充てて実施しているが、さらにAL

Tを増員して充実していきたいと考えている。文科省による方針の見直しにより、2年先にはこれが一般的になるとのことであるが、現在は2年先取りして実施している。

委員  
小中一貫教育については、小学校と中学校それぞれ連携しながら、進学時のギャップを解消するため、先生同士で情報交換を行い、生徒指導に一貫性を持たせるようにしている。また、安全面では避難訓練を合同で実施したり、中学校区ごとに年3回程度小中学校の担当者が集まって会議をしたりしている。特に、この春開校したおおたかの森小中学校は併設校なので、環境的にはさらに取り組みやすいと思う。

議長

教育に力を入れていく流れというのは、本市は学力的にも上位に位置しているとのことであり、教育に力を入れることで定住促進につながると考えている。ハード面を充実させるとともに、ソフト的事業への取り組みも重要だと考えている。

委員

英語教育では将来的なグローバル化もあることから、英語教育と併せて、例えば公立の小中学校でも短期留学を支援する取組みなどを行ってみてはどうか。

議長

金融機関ではそのような融資は行っているのか。

委員

金融機関では教育資金の融資で留学資金などを取り扱っている。

議長

来年、流山セントラルパーク駅の隣に私立小学校が開校する予定である。現在、先行して、幼稚園が開園しているが、英語特化型教育を実施しており、小学校についても英語に特化した教育を行うと聞いている。

公立でも、そのような留学ということも、近い将来、視野に入れていかねばならないのではないかと考えている。

委員

前回も申し上げたが、高齢者が亡くなり空き家が増えている。日本では毎年戸建て住宅が約90万戸建設されている。若者が働く1つの目的としてマイホームを取得することが挙げられるがそれも要因の1つとなっていると思う。そうすると子どもは親とは別に家を持つことになり、子ども世代にとっては親の家が負担になってしまう。そこで、ふれあいの家の整備と高齢者住み替え支援とあるが、空き家に若い人が住むような支援を取り入れてもらいたい。

委員

人口問題で、今、社会問題として言われている問題が、団塊の世代が75歳以上、後期高齢者人口になる2025年問題である。本市ではそこをピークとして概ね横ばいになるだろうと言われている。

高齢者がどのくらい増えるかという、後期基本計画の人口推計では、2015年の75歳以上の高齢者人口は、17,193人、2025年には29,400人となり、12,207人、約1.7倍に増加する。その内訳として、要介護といわれる人が11,405人、即ち3分の1は何らかの手助けが必要とされている。3分の2は

生きがいを感じている元気な高齢者と言える。私たちでは、なるべく高齢者がなるべく要介護とならないように、その3分の1を少しでも少なくしたいと考えており、その手立ての1つがふれあいの家である。ふれあいの家はいろいろなタイプがあるが、空き家を転換させていくことも1つであり、空き家対策とマッチングさせることはとても効果的なことだと考えている。高齢者住み替え支援の方は、家主の意向もあり、非常に難しい。委員の皆様にもこのあたりの状況についても御理解いただきたい。

ふれあいの家は現在市内17か所を整備している。小学校区単位で整備を進めているが、未設置の校区が3つあるので、そこは早急に整備を進めたいと考えている。問題は担い手である。元気な高齢者が主体となって動かしていく必要があるので、地域の協力が欠かせないと考えている。

議長

空き家の活用はそのままでは活用できないので、リフォームが必要になるが、その際に金融機関の支援を受けて事業を拡充する方向性もあるのではないかと思う。

本市の場合は、特に、北部地域や東部地域で高齢者が増加している。

委員

ふるさと意識の醸成について、地方から市内の大学に入学する学生の中には流山市や周辺で就職してやっていきたいと考えている学生がいるし、そういう学生を増やしていきたいというところもある。また、大学に留学生が増えており、流山の良さ、歴史や文化を学んで、愛着をもってもらうということもある。そういうところを出発点に考えると流動人口の増加にも繋がるが、1つ具体的な例として、「駅からウォーキング」というのが最近流行っている。駅ごとにマップが置いてあり、地域の特産品や文化・歴史、お店を紹介している。若者の心を惹き付け、高齢者にも人気になっている。このようなマップを作成することでも、地域を知る、良さを知る、地域を愛する、それがまた流動人口を増やすことに繋がるし、いずれ定住人口に繋がるのではないか。住んでいる人がその街を知ることによって質的向上にも繋がると考える。

委員

市内では保育士が大変不足している。現在、近隣大学と連携し、保育士の修学支援費を行っている。また、「母になるなら流山」だけでなく、「父になるなら流山」というフレーズも入れた方が良い。

先ほど、高齢者人口の増加の話があったが、本市の場合、年少人口も10年間増加し、2025年をピークに減少すると見込んでいる。全国的には特異なケースかと思う。

委員

「駅からハイクやウォーキング」はすでに取り組んでいる。南流山駅や運河駅、JRや東武鉄道とタイアップして取り組んでいる。

議長

留学生はどこからが多いのか。

委員

中国や韓国等のアジア圏からきている学生が多く、急激に増えている。英語は話せるが、語学力が問題になっている。

## 委員

以前、トーテムポール大会の時に、近隣の大学生に集まってもらったことがあるが、留学生は3カ月から半年ほどで日本語が話せるようになっていた。簡単な内容であれば日本語のパンフレットでも対応できるだろうと考える。

## 委員

もう1つ、なでしこの活躍もあるが、今度のオリンピックのこともあり、スポーツで若い世代を活躍させてあげたい。地域の活性化には文化、スポーツ等で流山市の魅力を表現することも良いかと思う。

## 事務局

本市のオリンピックの取組みについては、市の総合体育館を現在建て替えており、それを活用した誘致活動を進めている。具体的には利根運河で関係の深いオランダ王国、さらには、市内に卓球台メーカーの本社があることから、卓球競技で誘致を進めているところである。

## 委員

オリンピック誘致やスポーツ振興についても、市内経済の発展や将来を担う子どもたちのために一流の競技を見せてあげたいといったことについても総合戦略に加えていきたい。

## 委員

「3. 都心から一番近い森のまち」には主に産業振興部関係の内容が記載されているが、まちづくりの基本方針「安心安全のまちづくり」や「良質で元気なまちづくり」が位置付けられているが、そこにふさわしいのか疑問である。また、総合計画の施策の5-2は確か工業の施策だったかと記憶しているが、主な取組みで上げられている企業立地は5-2の施策だったかと思うがその確認をしたい。また、主な取組みのふるさと納税特産品よりも、「まち・ひと・しごと」の面から「雇用」という部分、施策で言えば5-3の施策から就労支援を位置付けた方が良いのではないかと思う。正規雇用の就労支援を行っており、実績も上がっている。

## 事務局

「森のまち」という基本目標に対し、内容がそぐわないという指摘はごもっともと考える。事務局では産業振興を基本目標の1つに位置付けるかどうかについて検討した結果、「まちづくり」の中の括りに位置付けることで整理することにした。もう1つ柱を作るかはこの会議で話し合ってもらいたい。

また、5-2の施策について、今手元に資料が無いのでわからない。

## 委員

～まちづくりとするなら、何か産業振興の関係のまちづくり的なものがあれば良いのではないか。

## 議長

その辺は事務局に検討していただければと思う。

## 議長

本日は、大きく2点について委員の皆さんに伺っているところであるが、そのうちの1つ、人口ビジョンの現状分析と将来展望に対して、何か御意見はあるか。

委員

出生率は、現在の流山市の1.5だと人口は維持できないと思われるが、なぜ人口ビジョンでは維持できると示しているのか。

事務局

国の人口推計に基づいて推計を出している。

委員

恐らく、国が推計している合計特殊出生率の2.07という数字は難しい。現状では恐らく人口は減っていくものと思われる。現在流山は社会増により人口が増加しているまちだが、将来的には、今転入した世代の次の世代が流山に定住し、子どもを産み育てることが無いと人口が増えなくなってしまう。そのときを想定した定住化促進策を検討しておく必要がある。

議長

御指摘のとおり、流山市としても大学進学や結婚を機に、転出して戻ってこないようなことは避けたい。これに対して有効な対策をいかに打てるかを検討しているところである

委員

「母になるなら流山」というフレーズについて、今回の話の中では特に、母（女性）＝子育てというイメージを連想してしまう。男女共同参画の視点からは「父になるなら、母になるなら流山」等とすべきではないか。

委員

平成52年の18万1千人の人口構成はどのようになっているか。例えば18万1千人の内訳の高齢者人口が4、50%になるようでは非常にバランスが悪い。バランスの取れた人口構成を維持するには、継続的に人口を増加していくような施策が必要である。

今回の地方創生には高齢化社会の問題解決の意味合いもあるので、人口構成を考えることは非常に重要である。

議長

人口ビジョンでは、2040年の高齢者人口の割合は30.4%、生産年齢は現在62%で2040年57%、年少人口は現在14.3%、2040年は12.6%とみている。

委員

確か、消滅可能性都市では2040年に半分の自治体が消滅すると言われてから2040年なのかもしれないが、もう20年くらい先を見通すとひと回りしてバランスの良い人口構成かもしれない。

議長

他に、基本目標について、改めて付け加えたい意見があればお願いしたい。

委員

安心安全の観点から地域の防災について、市としての防災計画はあるのか。市としての安心安全なまちづくりを進めるべきだと考えている。

事務局

地域防災計画及び防災備蓄計画は策定済みである。

委員

「安心安全」というフレーズを使いながら安心安全の取組みが少ないと思う。例えば青パトの取組みかなり積極的に取り組んでいる。

委員

「森のまち」というキャッチフレーズは良いと思う。それにつながる自然環境の取組みは流山市の特色だと思うので、ぜひ戦略にも位置付けた方が良い。

議長

グリーンチェーン戦略など緑を増やす取組みは積極的に取り組んでいるところである。

委員

防災や自然環境などはいいことだと思う。市の総合計画では網羅的に推進していくこととなっているが、この総合戦略では「まち・ひと・しごと」の観点から内容を絞ったものを作るのか、網羅的な戦略を策定するのか、考え方によってこのあたりの話しは変わってくると思う。

事務局

この計画は現在策定作業を進めている下期実施計画から本市の基本目標に合わせて横串を刺して策定していく。

委員

この「まち・ひと・しごと」とは施策に対して国から交付金がもらえるという点を念頭に置いて策定するものありだと思う。市として特色を出した事業を進めていくのかについてはっきりさせる必要があるのではないかと思う。

議長

現時点では、どのような事業に対して交付金が交付されるのかははっきりとは見えていない状態である。その中で、新規の事業をあれもこれも盛り込むことは将来的に財源不足を招いてしまう恐れがある。

メニュー出しとしては、基本目標を達成する事業について、下期実施計画の事業を位置付けたいと考えている。

特に、他に意見が無いようであればまとめさせていただく。

本日いただいた意見については、基本目標や施策、事業について盛り込んでいきたいと考えている。今後パブリックコメント等を経て、3月末までには戦略を策定したいと考えている。

創生会議の委員の皆様には、パブリックコメント実施前に庁内で取りまとめたものの確認を依頼するとともに、効果検証についても御協力を頂く。